

要旨

【研究の背景】近年子どもの虐待の相談件数は増加し続け、“母親がわが子をかわいいと思えない” “子どもを愛せない” というボンディング障害が問題となっている。妊娠の計画から分娩、育児に至るまでの個人的な背景に加え、継続的なサポート、とりわけエモーショナルサポートが大きな影響を及ぼすことが指摘されているが、助産師によるエモーショナルサポートとボンディングの関係性について明らかになっていない。

【目的】本研究の目的は、産後早期の褥婦の産後うつとボンディングについて、助産師によるエモーショナルサポートとの関連を探索することである。

【方法】本研究は自己記入式質問紙を用いた横断的記述的研究である。データ収集期間は2016年7月から11月で、対象は都内の助産所、診療所、病院から便宜的に8カ所選定した。正期産、単胎で経膈分娩または帝王切開術であった産後2-5日目の参加協力を得られた褥婦に直接説明し、666名に配布した。測定用具として属性、育児支援チェックリスト、助産師によるエモーショナルサポート尺度、産後うつを測定するEPDS、ボンディング障害を測定するPBQ-J16を用いた。母親が助産師から受けたエモーショナルサポートを測定するために助産師による妊娠・分娩期と産褥期のエモーショナルサポート尺度を作成した。統計的分析手法として、従属変数であるEPDSとPBQ-J16と独立変数との関係について連続変数はPearsonの積率相関係数を算出した。平均値の2群の比較には対応のないt検定、3群以上の比較には一元配置分散分析とGames-Howell法による多重比較検定を行った。さらに、EPDSとPBQ-J16に有意な関連のある変数を用い重回帰分析を行った。聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認（承認番号:16-A012）を得て行った。

【結果】有効回答数は510部であり（有効回答率76.5%）、初産・経産はほぼ同数だった。経膈分娩群426名、予定帝王切開群46名、緊急帝王切開群35だった。エモーショナルサポートは妊娠・分娩期と産褥期いずれも平均点が助産師主導の施設である助産所と診療所で高かった。重回帰分析の結果、産後うつはPBQ得点、分娩歴、精神神経疾患既往の有無、睡眠時間、パートナーや実母以外の相談相手の有無、妊娠・分娩期のエモーショナルサポート下位尺度である【Ⅰ心を愛情で満たす支援】が関連していた。ボンディングはEPDS合計得点、母の年齢、パートナーや実母以外の相談相手の有無、妊娠・分娩期の【Ⅲねぎらい励ます支援】【Ⅱ五感を通し母児が互いを認識する支援】が関連していた。

【考察】産後のうつ症状とボンディング障害の予防に助産師による継続的なエモーショナルサポートが有用な可能性がある。今後は因果関係について検討していく必要がある。